

令和6年度 特色ある教育・経営の取り組みを行う私立学校の事例集

地域密着・地域貢献の外国人育成を目指して

学校法人 暁学園
四日市大学

◆四日市大学について

西には鈴鹿山脈、東には伊勢湾を望む素晴らしい自然の中にある学校法人暁学園四日市大学は三重県四日市市の近鉄富田駅から直通バスで約12分の場所に設置されています。

昭和63年に三重県の北勢に位置する四日市市と学校法人暁学園との公私協力型方式により開学した四日市大学は、地域に根ざした大学として発展を遂げ、現在では総合政策学部(総合政策学科)と環境情報学部(環境情報学科)の2学部2学科を擁しています。

開学以来、建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」大学として、グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材の育成を行ってきました。地域に対し真に存在感を示すことのできる地域密着型、地域貢献型大学実現のため、実践的な学びを展開しています。現在では多数の外国人留学生(以下「留学生」と言います)の積極的な受け入れにより、全学生に対する留学生の割合は1割を上回り、グローバルな視点とローカルな温かさが調和する大学となっています。

教職員によるきめ細やかな留学生サ

ポートの結果、日本語学校教職員が選ぶ留学生に進めたい進学先「日本留学 AWARDS」において、平成25年以降、9回ノミネートされ、平成27年、29年は3年連続の大賞を受賞、令和5年には「私立大学文科系部門(西日本地区)」に入賞する等しています。

また、留学生の国内企業等への就職を一層促進することを目的として「留学生三重おもてなし就職促進プログラム」を実施しており、令和4年11月に文部科学省の「留学生就職促進教育プログラム」に認定されています。



四日市大学の校舎

◆留学生支援センターの設置

同大学は、教員組織である留学生支援委員会と留学生支援課の職員で構成

する「留学生支援センター」を設置しており、教職員が一体となって留学生の生活をサポートしています。

サポートの内容は、アルバイトの紹介や住居の斡旋など日々の生活の支援から、ビザの更新や奨学金の申請といった手続きの支援、就職や進学の支援など多岐にわたります。

また、留学生は通学の際に必ず同センターを訪れるため、教職員とコミュニケーションをとる機会が設けられています。ここで留学生との信頼関係を構築し、相談しやすい土壌づくりをしています。

◆留学生主体の取り組み

留学生によって組織される「留学生会」が中心となり、様々な活動を行っています。ここではいくつかの代表的な活動を紹介します。

留学生が原稿からレイアウトまでのすべてを担う「留学生新聞」は、一部の留学生からの発案により平成15年から始まりました。記事は、ボランティアやオープンキャンパスでの活動内容、日本語能力N1(幅広い場面で使われる日本語を理解することができる)の合格者体験談など、留学生自身の経験を伝える内容になっています。原稿作成は4か月以上かかることもあります。留学生支援委員会の中の留学生新聞担当教員が原稿の校正等を行い、学生と教員が二人三脚で発刊作業に取り

組んでいます。

「日本語弁論大会」は日本語能力の習熟度を確認するという目的で平成16年から始まり、今日まで毎年開催されています。現在は日本語能力だけではなく、世界平和という大きなテーマをもとに留学生自身が学んだことや考えていることを発表できる機会となっています。出場希望者は夏に立候補し、予選を経て、冬の本選に出場します。また、出場希望者1人につき、1人の教員がマンツーマンで原稿作成のサポートをします。出場する留学生は家族や友達、日本語学校でお世話になった先生やボランティア先の仲間などを招待します。日本語弁論大会は多様な人が集まる、地域・国際交流の場にもなっています。

以上のように留学生は行事や経験を通し、日本語能力を高めるとともに、人間的な成長をすることができます。また、それらの行事全てにおいて、教職員がきめ細やかなサポートをしており、留学生の成長と母校愛の醸成を支えています。

◆留学生三重おもてなし就職促進プログラム

「留学生三重おもてなし就職促進プログラム」は観光業が盛んな三重県において、地域の行政・企業と連携してきた「日本語教育」、「キャリア教育」と「インターンシップ」を体系的に提供するプログラムです。三重県では観光

業、流通業など「おもてなし」に関わる業種での求人が多く、本プログラムではインターンシップが配当されている2年生から日本語教育科目が終わる3年生までの2年間で、そうした需要に応える人材の育成を目指しています。なお、本プログラムに含まれる科目は卒業要件の単位として認定されるよう、留学生の負担にならない工夫がされています。

・日本語教育

日本語教育は日本語能力N1レベルの到達を目指して授業が展開されています。入学時のプレイスメントテストにより、日本語の習熟度別に少人数でのクラスが編成されます。様々な国からの留学生がおり、母国語が異なるため、留学生同士も日本語で話す場面が多く見受けられます。また、3年次には「キャリアのための日本語」として日本のビジネスシーンで円滑なコミュニケーションを取るための授業も開講されています。

・キャリア教育

キャリア教育では職業に関する知識や技能を身に着けるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力を養います。1年次は留学生のみの科目で、日本語能力をみがき、日本社会に関する知識や考え方を学びます。2年次からは日本人学生とともに、日本の会社や政治、地域産業やビジネスマナーなどについて学び、論理的思考

力や幅広い知識を身に着けます。3年次には経営分析論や経営ケーススタディなど、ビジネスにおける専門性を深めることができる科目が展開されています。

・インターンシップ

プログラムの受講生は2年前期と3年後期の2回、それぞれ約10日間のインターンシップに参加します。インターンシップ先は湯の山温泉や伊勢など三重県内の観光地の宿泊施設が中心で、留学生にとっては仕事を通じて「おもてなし」の精神や日本の企業の文化などを知り、留学生の母国との違いを肌で感じ取れる機会となります。また、複数のインターンシップに参加することで、それぞれの企業の雰囲気や仕事内容を比較することができ、ミスマッチのない、より納得感のある就職先の決定につながります。インターンシップ前には留学生に対し、日本のコミュニケーションの特徴やビジネス上の日本語を学習させることで、インターンシップでの学びがより深まるようなカリキュラムとなっています。

今後も「留学生おもてなし就職促進プログラム」を通して、観光業や流通業を中心とした地域に求められる留学生人材を育成していきます。また、三重県内の産学官が参画する「三重地域留学生交流推進会議」等とも連携をしながら、地元企業への就職を促進していきます。



留学生支援センターの様子

◆留学生に選ばれる理由

同大学に入学した留学生の特徴として、知人や家族から同大学のことを聞いて入学を決めている学生が多くいることが挙げられます。充実したカリキュラムやサポート体制が在學生や卒業生から口コミで広がり、同大学の志望につながっています。

また、日本語学AWARDS受賞数のおおきく、日本語学校の教職員からの信頼が厚く、教職員から同大学の受験を勧められるケースも少なくありません。同大学が入学生の母校である日本語学校に定期的に赴き、学習状況や様子を共有しており、地道かつ丁寧な活動が評価されています。

さらに、「ロータリー米山奨学金」や「四日市大学特別奨学金（四日市北ロータリークラブ）」といった地域の協力

を得た多様で手厚い奨学金制度を整えています。

在学生の満足度の向上や日本語学校との連携、地域との連携の結果、安心して学べる大学として留学生に選ばれていると言えます。

◆今後の展望

現在でも、授業やゼミの中で日本人学生と留学生が交流する機会がありますが、お互いの価値観や考え方を教えあい、相互啓発することのできる場を学内で創出していきたく、同大学は考えています。また、卒業生と同大学の間がりの強さを活かし、卒業後も留学生同士がつながることができるようネットワークを構築し、知恵を共有しながら地域に貢献できる仕組みづくりを展望しています。

◆取材を終えて

教職一体の丁寧なサポートと留学生主体の取り組みが、留学生の高い満足度と母校愛を醸成し、これにより、留学生のロコモや日本語学校からの高評価が生まれ、さらなる留学生の獲得につながる好循環が構築されました。グローバル化が進む私立大学業界の中において、留学生育成のロールモデルとして今後の発展に注目していきたいと思えます。

（取材）私学経営情報センター